

## 岩倉考政先生（医学科26期）アンケートご回答

質問1 受賞の喜びをお聞かせください。

この度は、大変栄誉ある賞をいただきまして誠にありがとうございます。非常にご多忙の中、審査して頂いた選考委員の先生方に深く感謝申し上げます。

質問2 いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

大学院を卒業後2015年頃から、既に臨床にて他の疾患に対して使用可能な薬剤の中で急性腎障害の予防および治療効果を有する薬剤の候補を探しておりました。その中で、抗炎症作用を有するDPP-4阻害薬に出会ったことから始まりました。動物実験で複数の急性腎障害モデルの検討をしている中で、シスプラチンによる腎障害モデルにおいてDPP4阻害薬が急性腎障害を軽減し、慢性期の投与を試したのがきっかけでした。

質問3 今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

動物実験では期待通りの結果が得られ、順風満帆に研究が進んでいきました。機序の解明に向けて、2016年から留学先で細胞実験を開始しましたが、多くの立てた仮説が否定的な結果ばかりで、最初の手がかりを見つけるのに半年がかかりました。留学先のプロジェクトを複数掛け持ちしながら今回の研究テーマも行っていたので、スケジュール管理に大変苦労しました。

質問4 近況をお聞かせください。

現在も母校の浜松医科大学に在籍し、臨床においては腎生検の責任者を担当しております。研究においては大学院生の指導をしつつ、自分の研究も行っております。

質問5 今後の課題についてお聞かせください。

基礎研究においては、様々な急性腎障害の予防・治療法の発見を目指して研究を継続していきたいと考えております。臨床においては、腎疾患の診断に欠かせない腎生検の責任者をさせていただく中で、患者さんにより安全に腎生検を行う新たな技術の開発や腎生検に代わる診断法の開発を行っていきたいと考えるようになりました。また、シスプラチンに関連しますが、**Onconeurology**についても関わっていきたいと考えております。

質問6 今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

今回の受賞は大変励みになりました。本賞が国内外で頑張っている後輩同窓生たちの目標になればと思いますので、今後とも受賞制度の継続をご検討いただけましたら幸いです。